

二月中頃に、道観世宗慶先生より高段者審査会のご案内を頂きました。伝統ある大日本武徳会の高段者審査会は、別世界のことと思えましたが、常にチャレンジ精神を持つての嘗ての師の言葉に導かれ、また道観世宗慶先生のお薦めも頂き、受審を決断致しました。

元来、脳天気な私は、京都散策もできるしと深く考えることなく、日々の稽古を繰り返しました。当日、京都駅から市内散策をしながら武徳殿に向かいました。数年ぶりの武徳殿の前に立ったとき、急激な緊張感に襲われました。厳粛な雰囲気漂う武徳殿は、その歴史からくる重みを感じないわけにはいきませんでした。

昨年までは全国武徳祭の中で行っていたのですが、今年は高段者審査会は武徳祭から独立して実施されていました。着替えを済ませ、審査会について諸注意を受け、準備運動から型の反復を行う中で、より冷静であることに心がけることができました。

居合道の方々と空手道は二面で同時に進行する慣れない環境の中、どうも一番手のようです。指名されれば、あとは緊張している暇もなく、気持ちを集中して、演武に挑みました。二種類の型の指示があり、全力で挑みました。

一番緊張したのは、当日結果を発表された時ですが、厳しいと思っていた結果が、思いがけなく合格と告げられた時には、表現のしようのない虚脱感に襲われました。

この度の高段者審査会を受審したことを通して、いつの間にか漫然と稽古していた自分に緊張感を与えることができたと思います。審査には合格しましたが、道半ばの武道修行。今後も、段位及び称号に恥ずかしくない心技体を身につけるため、益々精進しなければと思います。返した次第です。

高段者審査会を受験して

直伝円心流居合道 小野 純一

今秋号は総裁追悼記念号として発刊との事ですので、良い結果の感想文にて投稿出来れば良かったのですが、今回小生昇段審査会に受験させて頂きましたが、残念ながら私の未熟さで、審査が始まる直前より年甲斐もなく緊張のあまり大変お見苦しい所作をお見せしてしまい、真に恥ずかしいයි。申し訳ありませんでした。

大変残念でしたが、当然の事ながら昇段審査に叶う事は有りませんでした。思えば昇段試験の受験は、今回と同じ旧武徳殿で三十五年ほど前になりますが、剣道の昇段試験を受験したのが最後でしたが、何故か若かりし当時より今回の方が、恥ずかしい次第ですが年甲斐もなく緊張していたのかも解りません。

残念で悔いは残りますが、剣豪宮本武蔵の五輪の書の中に「我事において後悔をせず」と書かれているように、悔やんで後悔しても取り返せるものではないので、気を取り直し未熟な自分に反省に反省を重ね稽古に励んで行きます。

今秋十月には平安神宮奉納演武大会が控えています。あのような失態を二度と起こさないよう稽古に励んで行く所存です。